



7回、児島(右)を攻める大橋＝愛知県刈谷市の市産業振興センターで

スーパーバンタム東洋太平洋王者

大橋 必死のTKO

ノンタイトル戦

ともに1歩も引かない打ち合い。大橋コールが沸き起こる中で迎えた最終8回、左フックからの右ストレートで大橋がよ

▽8回戦

大橋 弘政 (HEIWAW)
 分8回TKO
 59秒1
 56(明石)児島芳生
 ・1(明石)児島芳生
 ・3(明石)児島芳生

うやく相手を仕留めた。

「(王座戦の相手だった)ロリー(松下)のパンチに比べたら、軽く思えたけど、手数は相手の方が多かった。判定になったら分からなかった」
 自らも認める苦しい試合。どんどん前に出てくる相手に対し、立ち上がりから激しい打ち合いになり、3回には6月の王座戦でも切れた右まぶたの上から再び出血。白いパンツが真っ赤に染まった。

練習して自信をつけるタイプだが、10日前に肋骨(ろっこつ)を痛め、練習ができなかった。試合後には「体力に不安があった。足が動かなかった」と明かした。

しかし、10月に結婚した妻・彩恵さん(29)が見守る中、負けるわけにはいかなかった。「(妻の前で)バシッと決めたかったんですが」と悔しそうな顔も見せたが、勝ちには勝ちた。

来春の防衛戦へ課題が見えた!

初防衛戦は来年3月28日。「きょうのような試合をしていたら倒される。もっと基礎からやり直したい。次はベルトを守るじゃなく、取りにくいつもりでやる」。勝ったからこそ見えてきた課題を胸に大橋は前を見据えた。(高橋雅人)